

令和 7 年度 第 5 回 千葉市自立支援協議会 運営事務局会議 議事録

開催日時	令和 7 年 11 月 27 日（木） 14 時 00 分～16 時 00 分	
開催場所	中央区保健福祉センター 13 階 会議室	
出席者	< 委員 >	
	伊藤 佳世子 氏	（中央区障害者基幹相談支援センター 管理者）
	田口 洋平 氏	（花見川区障害者基幹相談支援センター 管理者）
	伊藤 正彦 氏	（若葉区障害者基幹相談支援センター 管理者）
	由良 亮人 氏	（緑区障害者基幹相談支援センター 管理者）
	景山 朋子 氏	（美浜区障害者基幹相談支援センター 管理者）
	井出 孝子 氏	（稲毛区障害者基幹相談支援センター 管理者）
	末永 慎介 氏	（鎌取相談支援センター 施設長）
	高柳 佳弘 氏	（メープルリーフ 運営管理者）
	武内 康浩 氏	（千葉れんげサービス 管理者）
	平田 智子 氏	（千葉市ひきこもり地域支援センター 事業責任者）
	鈴木 信知 氏	（千葉市社会福祉協議会地域福祉推進課 地域福祉推進班長）
	仲村 美緒 氏	（千葉市発達障害者支援センター 所長）
	藤尾 健二 氏	（千葉障害者就業支援キャリアセンター センター長）
	奥澤 清城 氏	（稲毛区高齢障害支援課 障害支援班 主査）
	荒井 拓 氏	（障害福祉サービス課 指導班 主査）
	木村 直行 氏	（障害福祉サービス課 施設支援班 主査）
	手島 広記 氏	（障害福祉サービス課 地域支援班 主査）
	吉田 美穂 氏	（障害福祉サービス課 地域支援班 主事）
	山口 雅也 氏	（精神保健福祉課 通報対応班 主査）
	< 事務局 >	
	加藤 聡子 氏	（中央区障害者基幹相談支援センター 相談員）
	星 礼奈 氏	（中央区障害者基幹相談支援センター 相談員）
	篠原 健一 氏	（中央区障害者基幹相談支援センター 相談員）
	高梨 千恵 氏	（中央区障害者基幹相談支援センター 相談員）
議 題	議題 1：【報告】各地域部会の報告	
	議題 2：【報告】医療的ケア児等専門部会	
	議題 3：【報告】千葉市地域生活支援拠点からの報告	
	議題 4：【報告】就労部会	
	議題 5：【報告】千葉市精神障害者にも対応した地域包括ケアの構築推進事業からの報告	
	議題 6：千葉市自閉症協会より	
	議題 7：千葉市こどもの権利救済相談室について	
	議題 8：地域活動支援センターのありかたについて	
	議題 9：その他	
議 事	議題 1【報告】各地域部会の報告	
	花見川区基幹 田口氏 地域部会ではまず、児童の短期入所の受け入れ先が少ないという課題があがった。障害児に限らず児童の受け入れ先を探すことが難しい状況。短期をやっている事業所の中には千葉市の委託で子育て短期事業を実施しているところもある	

が、家に帰れない児童がいるなか、障害のある児童を同じ場所で預かることができないため、別の場所でとなると人員的にも難しい。また、８０５０問題に関しては、花見川団地に対象の方が多い一方で支援者の介入が難しい。８０５０になってからではなく、不登校やひきこもり等の早い段階から支援者が繋がるのが大切ではないかという意見があった。そのほか、児童の事業所からはサービス管理責任者・児童発達支援管理責任者の研修要件が緩和されたことで、事業所が乱率しサービスの質の低下が懸念されるといった意見があった。

稲毛区基幹 井出氏

相談支援事業所意見交換会では、あんしんケアセンター天台から介護保険について講義いただいた。８０５０ケースや利用者の高齢化といった課題をケアマネジャーに質問できる良い機会となった。また医療的ケア児等支援部会では、児童の日中の居場所について議題にあがった。移動支援、短期入所が非常に少ない。空床型については大人に混ざって泊まりはどうなのかという声や、短期入所の受給者証は発行していても事業所は未定という方も多いのが現状。親の就労形態が多様化し、土日でも出勤する方が増えているなかで、どうしても預かり支援が必要。学校の先生からは、支援が難しい家庭で、親のレスパイト目的で短期入所を利用したいというご意見も聞かれた。児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援に関しては事業所数が増えている一方で、短期入所や移動支援に関しては、なかなか増加が見込めない状況は、稲毛区だけではなく千葉市全体の課題と感じている。

若葉区基幹 伊藤氏

地域部会では、障害福祉サービスから介護保険への移行について検討した。制度の切り替え時期を想定し、ケアマネジャー歴が短い方、障害についてあまり詳しくない方にも障害分野のことを知ってもらえる機会作りが必要。また、関係機関が連携することでトラブルは減ってきてはいるものの、ケースバイケースで繰り返し伝えていく必要がある。また、行動援護に関しては、需要に供給が追い付いていないとの声や、障害のある方の余暇支援についても話題に上がった。スマホゲームに夢中になる方が多いが、スポーツ等のイベント企画ができないかといった話題があがった。

緑区基幹 由良氏

第２期基幹センターの公募により引き続き、社会福祉法人みらい工房が緑区基幹相談センターを受託することになった。委託仕様書の業務内容も見直され、新たに千葉市版グループホーム等支援ワーカーの配置が定められた。千葉県では既に障害者グループホーム等支援事業が実施され、各圏域にグループホーム等支援ワーカーを配置している。緑区は他市他圏域（大網白里、市原、茂原、東金）と隣接し、連携することが多いことから、情報収集・共有を目的に緑区と隣接している山武圏域グループホーム等支援ワーカー（特定非営利リンク・中核地域生活支援センター・さんネット）に話を伺う機会を設けた。千葉市版グループホーム等支援ワーカーとの比較において、具体的な業務内容については、現在、千葉市と基幹センターとで協議しながら内容を検討しており、訪問等による情報収集を重視し、顔と顔の見える関係づくりを基本に居住環境や支援スタッフ等の実態把握を目的に相談者の望む（希望する）住居となっているかを確認するための事業所情報を収集予定としている。

美浜区基幹 景山氏

就労選択支援事業の説明、特別支援学校の先生から現状について話を伺った。また、美浜区の地域課題として、児童・高齢者に比べて障害者の虐待通報が不明確ではないかとの問題意識が共有され、虐待の通報フローを見直すことについて検討した。また、美浜区には8050・9060問題の部会（定例会）がないため、今後検討していきたい。

中央区基幹 伊藤

8050部会では10/11に映画『どうすればよかったか』上映会・座談会を開催した。当日120名ほどの来場があり、今年新たに作成した事例集を配布した。上映では、統合失調症の女性が家の中で叫ぶシーンで当事者家族が鑑賞に堪えられず会場の外に出てしまう方もいた。映画の感想（アンケート）では、支援者から「なぜ医療に早くつなげなかったのか」といった感想があった一方で、当事者家族からは「家族の葛藤を自分のことのように捉えた」との感想があった。家族と支援者のギャップが浮き彫りになった。その他、暮らしの場支援会議（市町村から入所調整等の依頼があった対象者を各地域の民間事業所に繋ぐ）や就労選択支援事業の学校の役割や課題について議論。また、10/25に中央区実践報告会を行った。

議題2【報告】医療的ケア児等専門部会

若葉区基幹 伊藤氏

10月の専門部会では、医ケア児受け入れしている事業所（ふわっと、さいわい）に通所先の過ごし方を紹介頂いた。ふわっとからは、実践している「静的弛緩誘導法」について、児童の身体や筋肉に触れながら、体験を広げていくことを目的にやっているとお話いただいた。

中央区基幹 伊藤

11月の部会は短期入所アンケートの進捗速報を共有して頂いた。短期入所を利用しない理由が複合的であることがわかってきている。結果が出揃った段階で改めて共有したい。その他、地域防災訓練への参加について、11/8に川戸小学校への避難を実施（画像共有あり）した。今後は美浜区で実施予定。

議題3【報告】地域生活支援拠点等

資料①

中央区基幹 伊藤

11/1にキャリアセンターと地域生活支援拠点の共同主催で「将来に備えよう」というテーマで勉強会を行った。当日参加者は87名。主に、就労中でサービス利用が少ない方に向け、当事者の方にもご登壇いただきながら、障害福祉サービス等の制度について紹介した。

（当日使用した当事者へのインタビュー映像の一部を視聴）

キャリアセンター 藤尾氏

インタビューに応じていた方（サービスを利用しながら就労中）について、毎週金曜日にキャリアセンターに来てもらい、体調管理や金銭管理について支援員が助言している。母と同居している頃から地域に開かれていない家庭であったため、そこから脱却していく過程で多くの支援が必要となった。今回の勉強会では、グループホーム以外の選択肢もあることを含めて伝えられたのは良かった。講演会後の反響も多く、他市の方からの相談も多かった。

議題4【報告】就労部会	
<p>キャリアセンター 藤尾氏</p> <p>11/18に第一回就労選択支援事業連絡協議会を実施した。参加者は40名前後であった。実施状況の確認、意見交換を行った。実施状況については、11/12までに3件の利用があった。連絡協議会の趣旨として、実施状況の透明化を重視し、情報共有を行っていく。法人内の事業所の利用者から就労選択支援の利用希望があった場合、客観性を持たせる為にも他法人の利用を促す方針を、早い段階で共有できたことは今回の協議会の一番の肝であったと感じている。意見交換の中では、B型の体験利用を活かした実施方法を検討できないかという意見があがった。ケースを重ねて検討していきたい。また、相談支援の重要性について、就労選択支援事業にあたって、計画相談が必要になるのはどのような場面かということ掘り下げていく必要がある。さらに、事業の質を担保していく上で同時期に受入れる適正人数についても協議が必要であることや、通所が難しい方への対応等について意見交換を行った。最後に、協議会の開始時間について意見があり、18時→16時に変更する方向で来年度以降の実施を調整することとなった。</p> <p>障害福祉サービス課 木村氏</p> <p>ジョブシティのケース会議に出席した。事業所のアセスメント結果を利用者始め出席者に強制することなく、家族や学校との見立ての差異を丁寧に聞き取っていて実りある会となっていた。今後様々な課題を協議していければと考えている。</p> <p>鎌取相談支援センター 末永氏</p> <p>就労選択支援に計画相談が必要かという問いは、相談支援事業所としては衝撃的だった。ただプランを作っているわけではなく、就労以外の生活面も含めて本人にとってどの選択がいいのか整理する役割。セルフプランでは難しい部分もあると思う。物理的に入れないことはあるかもしれないが、原則計画相談が入る方向で考えて頂ければと感じた。</p> <p>キャリアセンター 藤尾氏</p> <p>前提として計画相談員の圧倒的不足という課題がある。相談員を付けなくてはいけない（待たなくてはいけない）ということが本人たちにとってマイナスに働いてはならない。千葉市の現状として、就労については入り口がセルフで後に相談員を付ける方も多い。そういった意味でも実際に走り出して必要性を掘り下げていくことが有効かと考えている。</p>	
議題5【報告】千葉市精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業	
<p>鎌取相談支援センター 末永氏</p> <p>広め隊、深め隊、進め隊の3つの分科会で活動を実施している。（資料参照） 12/16 第二回精神科病院と地域支援者の交流会を開催予定。</p> <p>千葉市精神保健福祉課 山口氏</p> <p>交流会に関して広報活動への皆様のご協力感謝する。前回31名が交流会に集まった。顔の見える関係性作りをテーマに取り組んでいるが、参加者アンケート</p>	

トでは、「病院のワーカーさんは、怖い印象だったが顔を知れたら安心できた」との声があった。「顔の見える関係づくり」という大テーマに関しては一定の評価が得られたかという一方で、課題も見えた。12月の交流会に反省を生かしてやっていきたい。前回の運営事務局会議で、「にも包括」構成員の名簿公開について意見を頂いたが、そちらについては現在調整中。	
議題6【報告】千葉市自閉症協会より	資料③
<p>中央区基幹 伊藤 生活介護で送迎をしていない事業所について。複数事業所での共同契約により送迎を実施できないかという議論がある一方で、利用者側としては、送迎の有無よりも活動内容や関係性や個別性を重視したいという思いもあるとの意見をいただいた。</p> <p>稲毛区基幹 井出氏 稲毛区でも同様の意見が上がっている。共同契約での送迎のニーズは高い。</p> <p>メープルリーフ 高柳氏 複数法人でも送迎が可能、減算しないとなっても、そもそも送迎加算の単位数が少ない。細かい検討事項が事業所間に委ねられていることも課題ではないか。また、千葉市が「送迎業務の委託が困難な地域」として認められるかという問題もある。また、重度の方に対応するための、移動支援・行動援護・複数人対応への予算的措置も大きな課題である。軽度の方については複数法人での取り決めが課題、個人負担の場合、工賃とのバランスも課題。</p> <p>中央区基幹 伊藤 医ケアの方にも同様の課題があり、親がやってきたが高齢で難しい。今求められている支援について、家族会等との意見交換の場が必要だと感じる。</p> <p>千葉市障害福祉サービス課 荒井氏 送迎に関する課題は耳に入ってきている。課題解決に向け、具体的な人数等の把握に向けて、今後ご助言いただきたい。</p> <p>中央区基幹 伊藤 課題を共有し、社会調査の方法を協会とも相談していきたい。</p>	
議題7【報告】千葉市こどもの権利救済相談室について	当日資料
<p>ひきこもり支援センター 平田氏 こども若者基本条例の開始を受け、こどもの権利擁護に力を入れている。千葉市では条例だけでなく、こども自身が権利侵害を受けている時の相談室を設置した。相談受付時間は、部活が終わった後のこどもが相談できるよう設定されている。</p>	
議題8【報告】地域活動支援センターのありかたについて	資料④
<p>中央区基幹 伊藤 けやきと仲間からの問題提起（資料参照）。就労継続支援B型を利用しながら地域活動支援センターを利用している方については、同日に報酬算定ができないという課題がある。利用者にとって地活という居場所が就労（日常生活）の支えになっているなかで、この問題をどう考えるか。就労系事業所が居場所として成り立てばいいが、現状そのようになっていない面がある。</p>	

	<p>千葉県発達障害者支援センター 仲村氏 利用者本人から類似の相談を受けたことがある。「お金にならないと言われて、併用すると迷惑になるのでは…」と思い、利用日数を減らした」という人や「就労継続に行くようになったが、今までのつながりや余暇を過ごすために元々利用していた地域活動支援センターに来たい」という人など。併用できると有難い。</p> <p>鎌取相談支援センター 末永氏 精神障害の人の居場所、人との繋がりが薄れてきている。障害者総合支援法の規定によって就労系事業所は増えた一方で、「自分の居場所を持つ」という点において地域活動支援センターの意義が問われている。</p> <p>キャリアセンター 藤尾氏 そもそも、居場所になれていない就労系事業所が多いということが問題ではないか。サービスをいくつも使わないと充足できない状況自体が課題。いつ、どういうタイミングで、どの事業所を利用するのかというコーディネートが必要な方が多く居るのではないか。</p> <p>メープルリーフ 高柳氏 工賃に目が行き過ぎている、本人や家族が「お金を稼ぐ」という事に固執しすぎているのではないかという問いがある。何のためにお金を使うのか、稼いだお金をどのように使うのか、その使い方が本当の意味で本人の利益になるのかという根底部分、価値観の段階から支援者のサポートを考えていく必要性を感じる。</p> <p>中央区基幹 伊藤 たくさん稼げる場所に繋げることが自立支援ではないということを相談支援の中でも意識を合わせる必要があるのではないか。</p> <p>議題 9 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千葉県グループホーム等支援ワーカーについて 10 / 1 から開始している。各区でチラシ等を順次作成中。事業所向け説明会を来年1月頃に開催予定。今後は各月でワーカーの意見交換会を行っていく。 ・こども若者みらい会議 お知らせ 第一分科会では本日平田氏から話が合った「千葉県こども若者基本条例」についても触れられる予定。 ・あみざーれサッカー大会 社会福祉協議会 鈴木氏 主催者からの報告があった。全参加者およそ300名のうち、障害のある方は20名の参加であった。前回大会が14名だったので、参加者は増加傾向にある。主催者としても今後、障害のある方の参加数を増やしていきたいとのこと。
次回予定	<p>日時：令和8年1月29日(木) 会場：花見川区保健福祉センター</p>